



森のなかま

2013年5月号

NO.61 (継続206号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102



平成25年度『第1回目のブラッシュアップ研修会』が行なわれました。
2013年4月13日(土) 場所:南足柄市内山 県立21世紀の森 研修室

< (公財)かながわトラストみどり財団 古館 彩子 >

年度初めとして、ボランティア活動中の緊急時にすばやく対応してもらうための**応急処置法と傷病者の搬送**を体験する内容としました。

今回の講師は、いつも「県民参加の森林づくり活動」で同行をお願いしている**青木看護師**。研修参加者にもお馴染みの看護師さんで、今までのボランティア活動に基づいた研修となりました。

午前中は、野外で起こりえる疾患の発症や体調不良の知識を学びました。

午後からは野外で「模擬搬送」を行ないました。班ごとに傷病者役と搬送役に分かれ、それぞれの立場から搬送方法を考えながら「人を運ぶ」難しさを体験しました。

最後に、ボランティア活動に携帯するAEDを用いて実際のアナウンスを聞きAEDを怖がらずに使うことの重要性を教えてくださいました。

今回の研修は、「いざ」という時に落ちついて対処できる指導者へステップアップして欲しいという考えから救急法を実施しました。

特に救急法については、その年のボランティア活動の始まる前に実施し、緊急時に迅速に動けるような実技や知識を学ぶ機会を計画しています。ボランティア活動の指導者は、活動時間内の活動全般の指導を兼ねていますので緊急時には迅速に対応することも求められます。このような機会を積極的に利用し、ボランティア活動参加者に「インストラクターさんが居るから安心して活動出来る」と感じてもらえるような指導者として、これからも様々な活動で幅広く活躍して欲しいと願っています。

今年度ブラッシュアップ研修は、次の内容で実施を予定しています。開催案内が届きましたらぜひご参加ください。

第2回 9月 1日(日) 里山整備 (山北町皆瀬川)

第3回 12月14日(土) 間伐研修 (相模原市緑区鳥屋)



疾患の発症や体調不良等の知識習得



リュックを利用した負傷者搬送方法



2~3人での負傷者搬送方法

救急方法も2~3年で変化していることを感じました。世界では災害が多く発生し、その都度学習しより実践的な救急方法に変化しているようです。『Plan⇒Do⇒See⇒ Plan⇒---』まさしくこれの繰り返しです。人工呼吸時のマウス to マウスより心臓マッサージ優先、山ビル出血手当て時の感染予防のシリコン手袋着用等です。森林に携わり指導する私たち森林インストラクターは救急法については毎年訓練しなければならぬと思いましたが、必須だと思います。
(研修生 M)



森林部会 『広葉樹・里山林整備技術研修会』

2月16日(土) 9時～15時30分 町田市三輪

<有坂 宗二 8期>

広葉樹林や里山林の整備技術研修会が町田市三輪で行われました。講師には三輪里山クラブで活動しているかながわ森林インストラクター8期久保重明氏をリーダーとして、8期清水良一氏、三輪里山クラブの広瀬攻氏、高玉力雄氏のご協力をいただき、インストラクター31名が参加しました。当日は風が非常に強く寒い日でしたが、ササ・タケの除伐作業、広葉照葉樹の伐倒デモ等、予定通り無事終わりました。最初に講義があり、荒れた里山を「里山風の憩いの場」に変えるため初めにすべきこと、荒れた里山の現状と整備方法について、三輪の活動状況をまじえての話しがありました。荒れた里山とはどんなものかの説明、その荒れた里山をどのような里山にするのか地権者と話し合い、三輪では常緑樹(広葉照葉樹、スギ・ヒノキ等の針葉樹)を間伐し落葉広葉樹を残す方針でそれに沿った里山にしなければならないとの事でした。

午前中は下刈りと地拵(じこしら)えでしたが、アズマネザサやマダケが多く作業は大変でした。特にササは刈払い機や枝打ちノコで根元から水平に切らないと危険ですので大変でした。地拵えはササやタケ、間伐した樹木を玉切りにして森林内の地面の侵食を防ぐために、斜面に直角になるように杭を打ってきれいに重ねゴミとして出さない。そして水の流れをさえぎることが出来るように枝を落とした間伐材を平行に密に低く重ねることが重要であると、講師の指導がありましたが、なかなかきれいには出来ませんでした。とくに広葉樹の枝は横に張っているので丁寧に落とすことが大切で時間のかかる作業でした。



ササ・タケの除伐作業実践



広葉樹の伐採指導



広葉樹の伐採デモ



特別提供！ 暖かい味噌汁

午後は広葉樹の間伐作業、まず作業に入る前に広葉樹間伐の指導があり、主な注意点は「枝の張り方、太さ、風の方向等を見極め倒す方向を決める事、ロープは必ず張る、人の力だけでは難しい場合はチルホールを使う事、また広葉樹はスギ・ヒノキと違い裂けやすいので受け口を針葉樹より深めに入れツルを多少厚めにする、伐倒木の枝は下側の枝は最後にして必ず力のかかっている枝から落とす、玉切り作業は斜面のときは絶対に上下作業はしない」等でした。続いて、チルホールのかけ方やロープのかけ方、伐倒等、三輪クラブの方々の作業を見せていただいた後、インストラクターも作業に入りました。風が強くなかなか思い通りには倒れず大変でしたが、3班で各班3本位は倒したようで目標は達成できたと思います。本日、勉強したことを今後のインストラクターの活動に活かしていただければと思います。

(写真提供: 佐藤武晴氏 5期、広報部 松本)

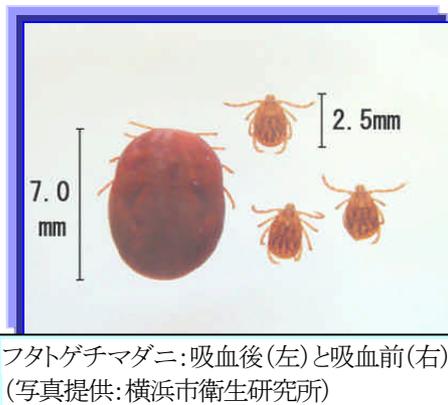


『 マダニのニュースに接して思うこと 』

< 上野潤二 11期 >

今年1月に、国内では初めて重症熱性血小板減少症候群ウイルスによる感染症患者が報告され、すでに5人の死亡者が出ています(3/31 現在)。

このウイルスは、中国でフタゲチマダニ、オウシマダニなどが宿主となっていることが確認されていますが、感染後6日～2週間の潜伏期を経て、38℃以上の発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)などが出現し、致死率は10%を超えるとの事。



フタゲチマダニ:吸血後(左)と吸血前(右)
(写真提供:横浜市衛生研究所)

今のところ患者は西日本からしか出ていませんが、フタゲチマダニは国内に広く分布していますので、感染する可能性がないとは言えません。感染を避けるには、特に活動が活発化する春から秋に草むらや藪などに入る際、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくして、ダニに咬まれないようにします。私たちが森林活動を行う際の通常の対策の徹底が重要となります。

ところで、このような記事に接する度に残念に思うことがあります。罪のないダニのイメージまで悪くってしまう事です。

確かにマダニ以外にも、ツツガムシ病を起こすツツガムシや喘息を引き起こすヒョウヒダニ、農林業の害虫となるハダニなどもありますが、このような迷惑なダニは4万種以上いると言われるダニ全体から見れば、ほんの一部に過ぎません。植物上や土壌中で人に害を及ぼすことなく、ひっそりと暮らしているダニが大半を占めているのに、ダニというだけでひとくりに悪く思われてしまいます。

ササラダニの仲間は、昆虫のトビムシと同様に、土壌中で植物遺体を碎片化、食べた物を粒状の糞として排出する事で、団粒構造の形成や分解者への橋渡しを行い、森の維持に役立っています。

マダニに吸血されて苦しみたくはありませんが、森林に関わる私たちとしては、マダニも生態系の一構成要素に過ぎないことや、無害なダニ、形のきれいなダニが多数存在することも認識しつつ、森の有用なダニについて、もっと世の中に紹介していかなくてはいけないのではないかと思います。



このような模様のササ(左)の葉の裏には、ケナガスゴモリハダニ(中)がいます。形のきれいなイトマキヒラタハダニ(右)も見られるかもしれません。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

私の認識

野鳥その109

高橋 恒通

今月のガンカモ目ガンカモ科の野鳥は淡水ガモのオカヨシガモ(漢和名:丘葦鴨、英名:Gadwall、体長L=50cm)です。

冬鳥ですが北海道東部では夏鳥ですから我国で少し繁殖もしています。その点から言うとオシドリなどとも共通した部分があります。

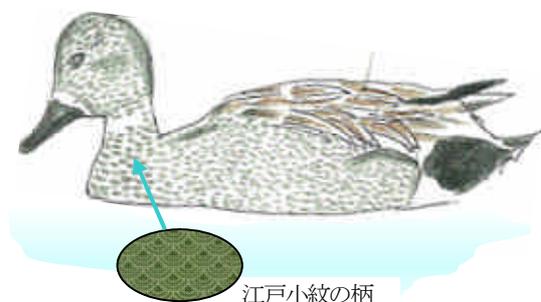
成鳥♂の体色は淡水ガモの中で最も地味で、オシドリのそれとは対極に位置しています。

嘴は黒、頭部は暗褐色、胸前から脇にかけて灰色と黒褐色の小紋の模様が見えます。そして大きな特徴は次列風切の翼鏡が大きくて純白な点です。特に飛んでいる時には、全身が地味である故、翼鏡は大きく鮮明に見えます。更に尾の全体がほぼ黒色ですので、その点さえ注視していればオカヨシガモは覚え易い野鳥であると私は認識しております。

これに対して♀の方はこれまでご案内させて頂いたカモ達のそれと同じく、地味そのものでマガモの♀と似ています。私個人の認識としてはヒドリガモの♀の方が、一段とよく似ている様に思っております。

所で、私がビギナーの頃のバーディングで幾度も何人かのリーダーから「玄人好みはやはりオカヨシガモですヨ」と聞かされました。

私自身もオカヨシガモをじっくり観察して、“玄人好み”の意味が充分理解できましたので、私がリーダーのバーディングの折には同じ事を言う様に心掛けています。



江戸小紋の柄

ご愛読の皆さんもオカヨシガモを観る機会がありましたら是非確認してみてください。

私のイチ押しは相模原貯水池です。あそこは双眼鏡無しの至近距離から、オカヨシガモとヨシガモを見比べる事のできるチャンスのある貴重な場所です。

私の独断と偏見によれば、ヨシガモの江戸小紋を彷彿とさせる紋様は明るく鮮やかで見応えあります。これに対しオカヨシガモのそれは抑えの利いた洪くて落ち着いた紋様です。

オカヨシガモの棲息環境は、池、湖沼、河川などですが干潟にも居る事があります。

行動様式は、私の経験でも数羽の小群での行動が多く、水面採餌や逆立ちして水中採餌をします。そして夕方になると水田や湿地へ移動し、イネ科植物の種子などを食べます。

図鑑によりますと、北海道で繁殖しているのは砂丘の草地に皿形の巣を作り、自分の羽毛を産室に敷いて産卵するそうです。世界地図上での棲息域は、繁殖が北米大陸中央や五大湖を含む中緯度帯で、越冬は面白い事にロッキー山脈の西、太平洋岸のオレゴン、カリフォルニアからメキシコ、テキサス、ルイジアナ、アラバマ、フロリダなどです。またユーラシアではイギリス、フランス、ドイツ、ポーランドで繁殖、越冬がイベリア半島、イタリア、ギリシャなどのほか東方ではインド北部、バングラデシュ、ミャンマー、タイ北部、ラオス、ベトナム、中国沿岸部そして極東の日本と非常にユニークな広い領域です。

北米大陸とユーラシア大陸に繁殖と越冬の棲息域を有する淡水ガモは、コガモ、マガモ、オナガガモそしてハシビロガモでしたが、オカヨシガモもその仲間に入ります。

容赦なく進行する地球温暖化の中で、上記5種のカモは直ちに絶滅には至らないだろうと思っておりますが、色柄が地味で目立たないオカヨシガモは、若し数が減っても案外それに気付くバーダーが少ないのではないかな…と考えられます。

ご愛読の皆様も“玄人好み”のオカヨシガモに是非注目してみてください。

(参考資料)

◎日本の野鳥, 山溪ハンディ図鑑 7, 写真・解説/叶内拓哉, 分布図・解説協力/安部直哉, 解説(鳴声)/上田秀雄, 山と溪谷社

◎日本の野鳥, 山溪カラー名鑑, 編 高野伸二, 解説 浜口哲一他 3名, 山と溪谷社 ◎ (イラスト) 広報 大塚 晴子

活動短信



今回の掲載 2/2~3/9

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。予めご了承下さい。

◆ 県民参加の森林づくり

日 2月2日(土)8時~13時、雨/曇り

場 小田原市久野(坊所)

参 82名

財 豊丸様、永島様 看 青木様

イ L一重⑪、足立④、米山④、斎藤⑥、杉戸⑥、松村(俊)⑧、飯澤⑨、女川⑨、水口⑨、高橋⑨、金森⑩、小笠原(多)⑩、松本⑪、上野⑪、小笠原(望)⑫、渡辺(敏)⑫

前夜からの雨が続いたためか、参加者は予定の2/3。小雨から作業中には雨も上がり、参加者は大して雨を気にする様子もなし。現場は緩斜面で10年生の檜林。5班に分かれて作業。

一本梯子を使つての枝打ち作業のため、現場で梯子の安全な取り付けかた、枝打ち姿勢および鋸の使い方を入念に説明した。また前後、左右の間隔をあけての作業を指導し、枝打ちは順調に進捗。



我が5班では約1時間で枝打ちを終了したため、間伐体験も追加した。受け口、追い口、つるの説明後、何人かに間伐鋸の使用体験をしてもらった。

2本のうち1本は枝掛かり処理を要したが、ロープの準備がなく、正常な倒木に至らず、デモ兼体験としてはややまずかったか…。しかし多くの参加者が間伐木を輪切りにする体験をして満足な様子で、さらには初参加者からは、間伐に技術が必要なのに感心、良い体験ができた、また参加したい等の感想が聞かれた。

なお、帰りの車中で、ミニ講話を楽しみにしていたのにとの声が聞こえ、確かに、中止のアナウンスもなくウヤマヤだったかと…

(記 渡辺 敏幸 12期)

◆ 森林体験とナンカレーづくり

日 2月9日(土)9時~15時、曇り/晴れ

場 小田原いこいの森(遠藤様 山林)

参 5名(大人2名・子供3名)

スタッフ 小田原市森林組合 佐藤様

イ L村井⑨、杉崎⑩、赤崎⑫、渡辺(敏)⑫

インフルエンザ流行の影響で参加取り消しが相次ぎ、当日も4人家族欠席などで、結局2家族5名(母親と幼児3名)の参加となった。急遽“すべてを幼児向け”と内容変更を要したが、ベテラン2名の柔軟な頭と特技、赤崎さんの子供向けパフォーマンス(ホスピタリティー)が若い母親と幼児を和ませ、お互い楽しくも有意義な一日となった。

内容は、10年生程の檜の間伐では幼児にも手を添えさせて鋸挽きを体験してもらい、倒した木の輪切りをお土産とした。次いでナン作りを行い、発酵の合間に幼児向けゲームを一緒に楽しみ、その後ナンカレーで昼食。

午後はクヌギの間伐を見学し、親子ともども玉切り体験をした。作業後のハンモック体験では怖がった女児も最後には満足、大人も体験しなげか盛り上がった。遊具で幼児がますます元気になったところで日程は無事終了。楽しかったとの感想を聞かせてもらい、リピーターになってくれることを祈る。

スタッフの佐藤さんも大活躍で大いに感謝。

(記 渡辺 敏幸 12期)

◆ 宇津木の森再生プロジェクト 2012第5回目活動

日 2月24日(日)10時~14時30分

場 八王子市久保山町2-1

宇津木台緑地(八王子市所有)

参 大人12名+子供1名、計13名

スタッフ 宇津木台 森遊会代表 金森 巖氏(10期)

イ 武本⑦

今年最大の寒波が到来したこの日は北風が強かった。双眼鏡を貸し出し、巣箱を掃除するための脚立を持って出発。緑地の中でまずは鳥の祖先などの話をする。6か所にある巣箱を順次開けてゆく、これらの巣箱は一昨年の冬に組み立てて設置、昨年春に5組のシジュウカラが利用した、今回春を迎えるにあたって掃除しておくもの、夏以降に鳥が利用したようで糞が溜まっていた。唯一利用されなかった竹林の巣箱は雑木林に

移動させた。午前中の緑地は風が強く鳥は全く現れなかった。カラス、トビ、キジバトなど大型の姿が観られた。午後は歩いて10分の多摩川に出発。多くの水鳥は勿論、コゲラやシジュウカラ、メジロ、スズメなどが出迎えてくれた。羽根標本を見せながら、フィールドスコープで観る水鳥に迫力を感じてもらった。

(記 武本 弘次 7期)

◆ 川崎市立日吉小学校 自然観察

環境を守る、自然とともにくらす、主役はやっぱりわたしたち?

日 3月1日(金)、曇り

場 やどりき水源林

参 5年生132名と先生7名

財 永島様

イ L野田⑧、井出①、竹島③、宮本④、山崎⑦、黒澤⑧、松本⑧、村井⑨、酒井⑩、杉崎⑩、松山⑩、赤崎⑫、永松⑫

あいにくの曇り空、でも寒さは一休みの中での自然観察。スギ花粉が舞う時期の観察会なので、花粉症の子供たちには大変な観察会となったが、インストラクターの中にも症状のひどい人がいて苦戦していた。

植物の少ない季節での観察会でしたが、人工林、雑木林の区別がはっきりでき、常緑樹、落葉樹の違いも良く観察できた。風で落ちていたスギの葉には、雄花は勿論だが雌花の付いているものもあり、雌雄異花の説明材料となる。成長の森では森を作るために伐られた切り株で幹の観察。植栽後6年で5~6mにまで成長している木、それに鹿の食害から木を守るための柵、柵の周りのシカの糞などの観察もできた。

昼食後はやはり河原での遊びに熱中。河原での遊びは子供たちにとって最高の勉強かも。

まとめの会では、くたびれたとの声は全くなく全員がもっとやりたいとの声。もう少し時間がありゆっくり観察できたら最高ですね。

この観察会には桜美林大学のエコトップの学生が3名参加され、インストラクターの補助として活動された。

(記 野田 重雄 8期)

◆ 林道テクテク

日 3月1日(金)、曇り

場 湯河原町 白銀林道~クスノキ純林~幕山梅林

参 22名

スタッフ 神奈川県森林協会 小笹様 浅野目様

県森林再生課 久富様 宇田川様

イ L内野⑨、武者⑦、三浦⑧、女川⑨、小林⑩

風が大変強く、さらに予報では午後から雨も降り始めるという天候の中を湯河原駅からバスに乗り出発。一気に高度を稼ぎ「しとどの窟」で下車。ほぼ平坦な白銀林道を歩き、幕山梅林まで下るコースを参加者に林道、治山、森林等の説明を交えて自然の様子を案内した。白銀林道の途中で、人工林の中の昔は馬や牛が通ったであろう細い踏み跡を下り菜畑林道へ。幕山や相模湾を眺めるビューポイントで風を避けて昼食。クスノキ純林に入って急な山道を下り、クスノキの爽やかな香りを感じ、雨にも降られずに無事幕山梅林で解散した。梅は3分咲きということで、梅林内は強風に乗って微かに甘い香りが漂っていた。

参加者は、森林協会が秋におこなった「林道ウォーク」に抽選で落選した人たちで、どちらかと言うと「歩きたい」と思っている人が多いようであったが、各班が3名~5名と少人数だったので、話に耳を傾け、自然に関心を持ってくださったようだ。質問なども交えて、和気あいあいと楽しんでおられた。

感想を伺うと芽吹きを季節を迎える自然の姿を感じることができたと喜んでおられた。

(記 内野 ミドリ 9期)

◆ 森林間伐体験

日 3月6日(水)9時~13時、晴れ

場 やどりき水源林 鈴廣パートナー林

参 鈴廣鈴和会 20名

具 内田様

イ L飯澤⑨、山崎⑦

かまぼこ作りに欠かせない「水」と「魚」は森林によって育まれており、その森林の保全活動を通して間伐の大切さを社員に知ってもらうとの趣旨で間伐体験を行った。

日本の人工林の現状と間伐がなぜ必要なのかを間伐開始前に説明した。間伐体験は初めての方が多かったので間伐の基本的な事を説明しながら、伐倒木周辺整備、伐倒方向決定、ロープ掛け、受け口、追い口、伐倒、枝打ち、玉切りと作業を進めた。今年は幸い掛り木にならずに済んだ。

若い女性12名、男性8名の参加で、責任者は昨年も

参加した女性だったので要領よく進めてくれた。初めて体験する者が多く、説明も真剣に聞き作業にも熱心に取り組んでいた。全員で力を合わせてロープを引き、木がユックリと傾き地響きを立てて倒れた時は歓声を上げ感動していた。後処理、道具の手入れもテキパキと行い、昼食は支給の弁当を一緒に食べ、歓談し、伐倒した木で作ったヒノキのコースターと山崎さんの用意したストラップをお土産に大変喜んで、来年もぜひ参加したいと言って帰って行った。指導する方にとっても爽やかで、気持ちの良い団体だった。

(記 飯澤 恒 9期)

◆ 13期生養成講座(自然観察会)

日 3月9日(土)10時～15時30分、晴れ
場 県立21世紀の森
参 31名(欠席1名)
財 内海課長、初山様
イ L女川⑨、黒澤⑧、野田⑧、内野⑨、杉崎⑩

13期生養成講座第一年次の最後は自然観察会の実習を行いました。午前中はミニ講話の後、5班に分かれて各インストラクターによるデモンストレーション、午後は同じく5班に分かれて各研修生に解説の実習を行ってもらいました。実習では「金太郎コース」を7区間に区切って、各研修生に1区間ずつ担当してもらいました。

自然観察に関する研修は今回が初めてとのことでしたが、各人が得意な話題を盛り込んだり、体験談を交えたり、お互いに助け舟を出し合ったりで、和やかな雰囲気の中に終了時刻を迎えました。

従来は第二年次にも実施しましたが、今回はこれで終わりとのこと。講師一同、皆さんがインストラクターになってからスムーズにこの活動に入られるようにと願って終了しました。

(記 女川 修 9期)

◆ 小田原市立久野小学校

植林(植栽活動による森林環境教育)

日 3月9日(土)、晴れ
場 小田原いこいの森
参 大人92名、子供50名(合計142名)
イ L村井⑨、宮本④、小沢⑨、大澤⑩、酒井⑩、大塚⑪、渡辺(敏)⑫、赤崎⑫

暖かい春の陽気の中で、楽しく植栽を行いました。場所は小田原いこいの森。

私たちは小田原城の前の駐車場で参加者の皆様をお待ちしておりましたが、ウメの花が誇らしげにお堀脇に咲いていました。参加してくれた子供たちの学校は、小田原城のすぐ裏にあるそうで『ときどき観光客が間違っって教室に来ることもあるんだよ』と楽しそうに話してくれました。

現地に到着してからは、まず関係者の方々からお話があり、その後、林業組合の方が植栽の仕方を指導してくださいました。それからは班毎に指定された場所に各々気に入った樹種を植栽していきました。樹種は広葉樹を中心にイロハモミジ、ヤマボウシ、ヒメシャラ、カツラ、ホオ、ケヤキ、シラカシ、タマアジサイ、ムラサキシキブ、アカマツなど本当に多彩でした。

午後は豚汁とおにぎりが振る舞われ、美味しくおなかを満たした後、集合時間まで自由にすごしましたが、木工クラフト、チェーンソーアートのイベントに参加することもできました。また子供たちは森の中の遊具で体を動かして遊んだり、小川で水に触れたりと森林の良さを存分に体験できたようです。

(記 赤崎 さほり 12期)

略語の説明

日：日付、 **場**：場所、 **参**：参加者、
県：(神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)
財：((公財)かながわトラストみどり財団)
スタッフ：例 小田原市森林組合・XX様
 例 川崎市公園緑地協会・XX様
看：看護師、 **イ**：インストラクター (○数字：期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源地環境の
 保全・再生をめざして

おけがえのない神奈川の心を守るために



人も自然も
 いきいき **丹沢**

丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページは下記URLで
 ごらんください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林
ミニガイド

4月のトピックス

様々の花、新芽が！！
(3月中旬までの寒さが嘘のように暖かくなり
植物も人も活発に活動をはじめました)



(満開のヤマブキ 4月11日、でもこの日は寒くて大山が白くなっていました)

5月の水源林

春まっただ中です。若芽、花の競演。
ウツギの花が見頃です。川も緩み、川
遊びもできます。ご家族、お友達と皆さ
んいらっしゃい！！

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしてい
ます！！

- 実施時間：毎週土曜・日曜・
午前10時・午後1時、1～2時間程度
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然
観察にご案内します。森林のしくみ
手入れなどについて説明致します。
参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記まで
ご連絡ください。
- 問合せ：(公財)かながわトラストみど
り財団 TEL：045-412-2255
携帯：090-8580-5348
FAX：045-412-2300

- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線
松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やど
りき)」行き乗車約 25 分。バス下車後
(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

『地質の日 記念講演会』

「M9 シンドロームと抗震力」
「箱根の火山活動と地震」

5月12日(日) 13:30～15:30
(事前申し込み不要)

場所：
生命の星・地球博物館
料金：無料
問い合わせ先：
神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課
TEL:0465-21-1515
関連サイト：<http://nh.kanagawa-museum.jp/>



◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集してい
ます。

<広報全般についてのお問い合わせ>
松本 保

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp
Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865
横浜市神奈川区片倉 2-1-50
Tel: 090-6150-6173
Mail: s.akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037
横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17
Fax: 045-301-9401
電話連絡先: 090-7962-3168
Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871
小田原市下堀 123
Tel/Fax: 0465-42-7240
Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045
横須賀市東逸見町 3-7
Tel/Fax: 046-825-9281
Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp
原稿は随時受け付けています。

編集後記



柏餅の包葉
関東ではカシワの葉、四国地方などの
近畿圏以西ではカシワの木が自生して
おらず代わりにサルトリイバラ等の葉を
代用して作られることが多いそうです。

★今年もGWがやってまいりました。
皆様どうぞ楽しく、安全にお過
ごしてください。(赤崎)

★花粉症も収束し、山へ出かける
のが楽しみです。

でも、山ビルがもう待ち構えてい
るんでしょね(水口)

★広報部長のバトンタッチが出来
ほっと一息、次の仕事(?)を楽し
く前向きに進もう!(小沢)

★仕事で九州宮崎に単身で赴任
中です。先日照葉樹で有名な綾
町に行ってみりました。町の中心
部から見える風景は竹林・人工
林が多く意外でした。次は照葉樹
林地区へと思っています。

(真貝)

★緑が美しい季節ですね。新た
なる門出に旅立つ人の道中も、良
いご“緑”が溢れていますように。

(加藤)

★広報部長をやることになりました。
皆さんの御協力をお願い致し
ます。私たちみんなはNPO(非
営利団体)です。(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望
の方は、郵便局備付けの郵便振
替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会
宛まで購読料年2000円をお振込
み下さい。振替用紙には、必ず、
住所、氏名を明記して下さい。
振替用紙到着の翌月号から12回
/1年間お届け致します。
(頒 価 200円 送料共)

編集人：松本 保
事務局：竹島 明
広報部：小沢章男 水口俊則
真貝 勝 鈴木 朗
鈴木松弘 大塚晴子
徳岡達郎
加藤暖子 赤崎さほり

松田町のイベント情報



・若葉祭り
5月5日
寄みやま運動広場にて

・春の
ハーブフェスティバル
6月～6月下旬



(問い合わせ)
0465-85-3130 (松田町観光協会)
0465-83-1228 (松田町環境経済課)

山や散策の
お帰りにお越しく下さい。

山麓のオアシス[®]
～ お食事処 ～
(もちろんお飲み物も)

こまち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店